

礼文町

中村 真実

1. 概要

礼文町は日本海上に位置する日本最北の島である。

最高峰の礼文岳(標高 490 メートル)を中心に南北 29 キロメートル、東西 8 キロメートル、面積約 82 キロ平方メートルのなだらかな丘陵性の地形が広がっている。冬の厳しい偏西風を受けて西海岸は切り立った断崖絶壁が連なり、東海岸はなだらかな山並みが海へと続いている。夏には約 300 種の高山植物が咲き乱れる風光明媚な花の島、そして海の幸豊かな漁業と観光の島である。

この島が花の島といわれる所以は、高山地帯ではないが高緯度のため、島の中で多くの高山植物が生育しているというところにある。その要因としてあげられるのが、西海岸の気候性にある。東海岸が晴天の時でも、西海岸に近づくにつれて次第に霧が濃くなり、立つことすらできないほどの強風が吹くこともある。このような島特有の厳しい気候条件が気温を低下させるため、そこに適応した種類だけが育ち、春の訪れとともに次々と花を咲かせるのである。

夏季(6 月頃～)にはレブンソウ、レブンアツモリソウ、レブンウスユキソウなど、本州ならば 2000m 級の山でないと見ることの出来ない高山植物たちに比較的簡単に会える島なのである。例えば、ミヤマオダマキなどは、礼文島内ではありとあらゆる場所で見ることが出来るのである。

そして、この島で一番有名な花は、この島にしか咲かない『レブンアツモリソウ』である。この花を見たくて毎年島を訪れる人も多い。咲く時期が限られているため、花のピークに合わせて島を訪れるのはなかなか難しいといわれている。更にアツモリソウの後に続く花としては、『レブンウスユキソウ』という別名『エーデルワイス』がある。

アツモリソウと違い、比較的長期間にわたり花が楽しめるといわれている。5 月中旬から 8 月にかけて礼文島では様々な花が咲き揃う。希少な高山植物が咲き乱れ、咲く花の種類は、2～3 週間ごとに変化する。この島の花は、固有種、希少種が多いため学術的価値が高いともされている。

また、この町は、ひとつの島で成り立っているため、隣接する自治体はないが、空路・航路により宗谷支庁、稚内市、利尻富士町などの市町村と関係が深い。姉妹都市、提携都市には、岩手県花巻市や広島県豊町などがあげられる。

図 1 礼文町のカントリーサイン



出典：宗谷支庁ＨＰ

1-1.地名の由来・歴史

礼文島の地名の由来はアイヌ語の「レブンシリ」＝沖ノ島という意味の語源からきている。

その歴史は古く、約 3 百万年前の 1668 年に松前藩が支配する漁場として開かれたことが始まりとされている。その後 1878 年礼文郡各村戸長役場が香深に設置され、1892 年には、船泊村（現町北部）が分村。1956 年、香深村の財政悪化もあり船泊村、香深村が対等合併し、礼文村となる。1959 年、町に昇格し、礼文町となり現在に至る。

1-2.地理・気候

礼文町は、北海道最北の宗谷支庁西部の礼文島にある町である。宗谷支庁西部の日本海上にある礼文島全域を占めている。稚内市沿岸から西方 50km に位置し、日本最北端の（北緯 45 度 30 分 14 秒、東経 141 度 4 分 16 秒）として知られる。周囲 72km、面積 82 平方 km である。

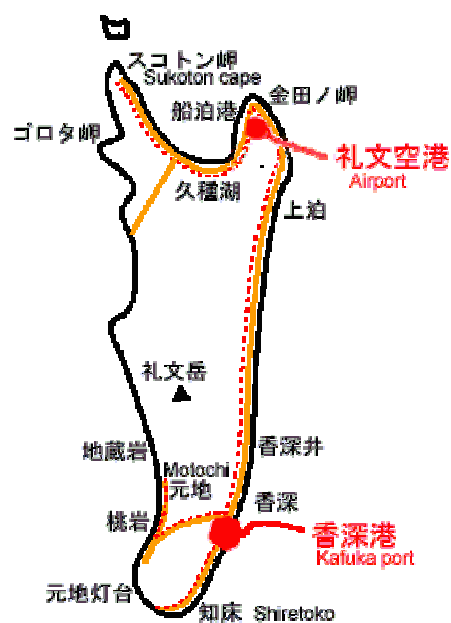
気候は、偏西風の影響により夏は涼しく冬には氷点下 10 以下になる事がある。夏期平均気温は、5 月 9 位、6 月 12 位、7 月 17 位、8 月 18 位、9 月 15 位となっており、また、気象は標高が高くなくても 1000m 級の山岳のように変化が激しいのが特徴である。

島は南北に長く、ほぼ逆三角形の形状になっている。北部を船泊(フナドマリ)、南部を香深(カブカ)と呼ぶ。島西部は断崖絶壁が続き、自動車、バイクでは島を一周することができない。島東部海岸には北海道道 40 号礼文島線が南北に走っている。

以下、この島の地理の主な特徴をあげる。

- 山: 礼文岳 (490)
- 河川: ホロナイ川(大沢川)
- 湖沼: 久種湖(クシュコ)
- 島: 海驢島(トドジマ)、種島(タネジマ)
- 岬: スコトン岬、金田ノ岬、澄海岬、ゴロタ岬

図² 礼文町の地図



出典：礼文町 HP

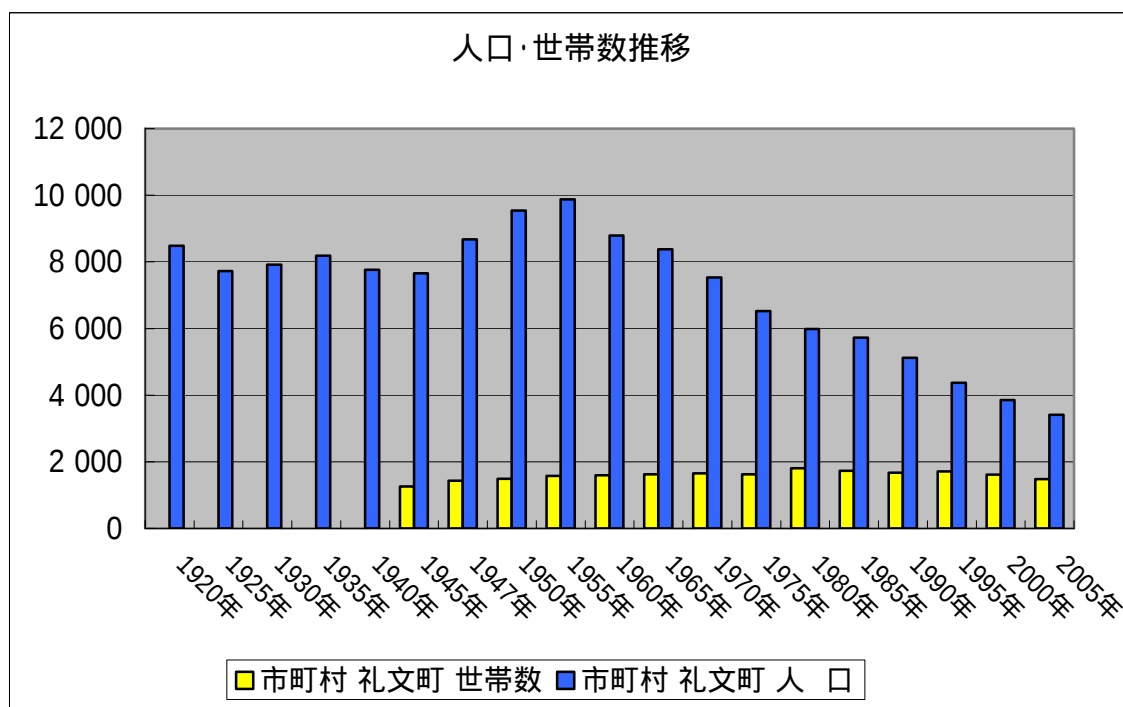
図³：宗谷管内の市町村



出典：北海道新聞、北海道市町村情報

2.人口・世帯数推移

図 4 礼文町における人口・世帯数の推移



この表から読みとれることは、1955年以降人口は減少しているにもかかわらず、世帯数は一定の数値を保っているということである。この理由としてあげられることは、若者の都市への流出、少子高齢化の進行、そして核家族化の影響があると考えられる。

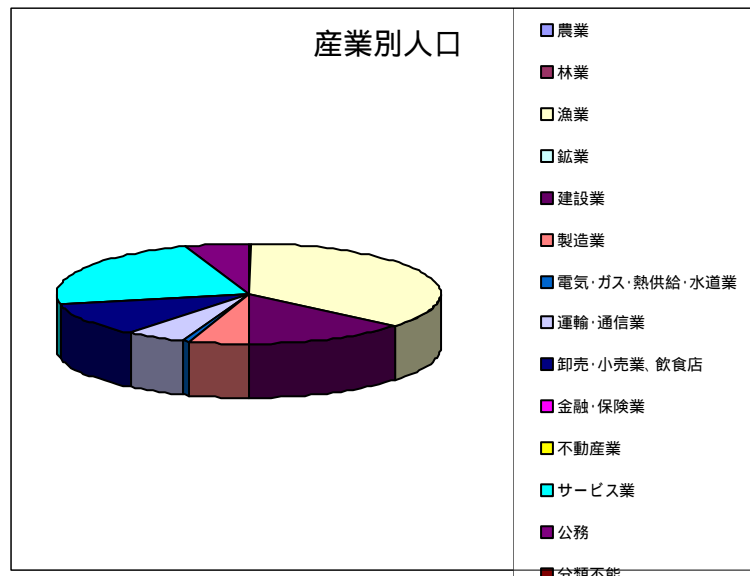
3.産業・産業別人口

やはり、周りを海で囲まれた島国ということもあり漁業が盛んである。一年中、海の幸に恵まれ夏はエゾバフンウニ、利尻昆布の産地として有名である。そして、この町ではウニや昆布、アワビなどの捕獲量を制限したり、「育てる漁業」を目指すなどの配慮もされている。また、最上の昆布を食べ、厳しい北の海に育ったうには特に美味しいと評判である。その他に、ほっけなどがあげられるが、脂がのっていて、そのまま焼いても、ヌカほっけにしても美味しく、炭火でじっくりと焼きみそを付けて食べるチャンチャン焼きなどがあり、この島の食べ方として知られている。

また、礼文町利尻昆布は、味が良く、最高級のだし昆布として、又漬物や料理に珍重されている。

しかし、農業や林業については、島の3800人という人口の少なさもあいまって、特徴といえるようなものはない。農家数・農家人口・耕地面積のいずれにおいても低い数値を示しており、生産額においても同様のことが言える。

図 5 産業別人口



この表から読みとれることは、漁業の占める割合が大きいということである。先にも述べたように、この島の産業は漁業によって支えられていると言っても過言ではないであろう。

また、主な特徴としてあげられることは、サービス業に従事している人口が多いことがあげられる。観光スポットとして注目を浴びるようになった今、民宿の経営や、島だからこそできる体験を多くの人に楽しんでもらうためのサービスの提供が大いに盛り上がりをみせているのである。このようなサービスの充実により、毎年 30 万人を超える観光客が訪れており、観光と水産を基幹産業として成り立っている町と言うことが出来るであろう。

しかし、その反面、グラフからも読みとれるように農業や林業に携わっている人口が極端に少ないこともわかる。

4.観光

礼文島ではいくつかの岬が観光スポットとしてあげられる。

その中でも特に有名なのが、スコトン岬である。日本最北限のトイレがある場所として知られている。また、礼文島最北端の地であり、正面には無人のトド島が浮かび、晴れた日には遠くサハリンを望むこともできる。礼文島を訪れた観光客は必ずと言っていいほどここを訪れている。人気観光スポットである。



その他にも自然をメインとした観光スポットがたくさんある。

- 高山植物園

入園料 大人 300 円、小人 150 円、 高山植物に関する学習資料などが展示されていて、パソコンを利用した花図鑑で、250種の高山植物を調べることもできる。

- 高山植物群落

レブンアツモリソウなどが見られる。時期は 5 月下旬から 6 月下旬。

- 礼文林道（林道の脇に咲く花々が歓迎してくれる）
- 桃岩展望台（桃岩と猫岩を一度に展望できる施設）
- 地藏岩林道（高さ約 50 メートルの奇岩。夕日のポイント）
- 猫岩
- 金環日食観測記念碑

昭和 23 年 5 月 9 日当時新しい日本の歴史的大事業として、日米共同の科学者 1500 名により観測され、広く世界の歴史に記され、以来天体科学の地となった場所。

- 銭屋五兵衛記念碑(江戸の豪商)
- 上村占魚句碑
- 澄海岬(晴天時オススメ)
- 礼文岳(標高 490m、頂上まで約 2 時間)
- 久種湖（日本最北の湖、ミズバショウ群生地）
- 利尻礼文サロベツ国立公園
- 波の音、潮風、海に沈む夕陽（priceless）

また、この島では夏季の間たくさんの祭事が開催されている。

- 花まつり（６月）

花々が一斉に咲き競う爽やかな初夏を彩るまつり。花にちなんだプレゼント、名物「浜鍋」の無料サービスの他イベント盛りだくさんである。

- 厳島神社祭（７月）
- 湖畔まつり（８月）
- 海峡まつり（８月）

これらの祭事では、島全体が熱気に包まれ、短い夏を謳歌する。海の幸を格安で賞味できる屋台が並ぶのも魅力のひとつである。

参考資料：宗谷支庁ＨＰ www.souya.pref.hokkaido.jp/main/ - 28k
礼文町ＨＰ www.saihoku.net/rebun - 5k